業種 製造業

身体 知的 精神

02 株式会社ワイエムフーズ

企業概要

所在地:阿賀野市京ヶ瀬工業団地3610-157　電話:0250-67-2797

事業内容:鶏卵加工品の製造販売

従業員数:312名うち雇用障害者数7名

URL:http://www.ymfoods.co.jp/

社内の理解を得て、実現した障害者雇用

DATA BOX

現在の障害者雇用の状況

知的障害者4名　精神障害者3名

主な担当業務

卵の加工、梱包の箱作成等

雇用の経緯

平成25年頃、他社から出向していた現総務部長が当時の障害者雇用率の低さに鑑み、企業の社会的責任を果たさなければならないという思いから、障害者雇用の推進に着手しました。

まず経営陣の理解が第一だと考え、経営会議等で障害者雇用の意義とその重要性を説明し、会社の経営層から理解を得られました。その後、各課のリーダー会議等を通じて障害者を雇用することへの理解と協力を呼びかけ、徐々に社内に浸透していきました。

ハローワーク(P.36参照)、障害者就業・生活支援センター(P.35参照)等に障害者を紹介してもらい、職場実習(P.29参照)、トライアル雇用を経て採用しています。

採用までのプロセス(一例)

1. 合同面接会、支援機関からの紹介
2. 職場実習
3. トライアル雇用
4. 正式採用

梱包用の箱を組み立てる様子

point 1 希望はできる限り対応する

どの時間帯で働きたいかという要望があれば、希望する時間で働けるように配慮しています。当社の工場は24時間稼働していて、常に現場に従業員がいるので、色々な時間帯のニーズに合わせることができます。

注意欠如等により忘れ物の多い障害者には、作業着の貸し出し、自宅に取りに戻るなど、本人の希望に応じて柔軟な対応を心がけています。

障害者と障害者、障害者と従業員の間において、コミュニケーションがうまくとれなかったり、思い込みから生じた誤解や衝突に対しては、両者から親身に話しを聞き、対策を講じています。

勤怠の状態を見て、休みがちになってきた障害者に対しては面談を実施し、本人の抱えている悩みや不安を聞いて、早期に解決するようにしています。

point 2 コミュニケーションはメモやメールを活用

障害者は直接会話することが苦手な人も多いので、コミュニケーションは机の上にメモを置いたり、メールで相談したりといった、文章でのやりとりが主な手段となっています。ここ数年でやっと机の上にメモを残せるようになった障害者もいて、徐々に心を開いてくれている実感があります。

また、障害者就業･生活支援センターの担当者から頻繁に訪問してもらい、障害者や従業員のサポートをしていただいています。

社内にも障害者の相談役となる人がいます。信頼されている人が間に入る、ワンクッションを担う役目を作ることは、みんなが円滑に働けている秘訣です。

卵の殻剥きの様子

丁寧な仕事をしてくれます！

製造部 第一･第三課長　星野さん

障害者は単調な作業であっても、根気強く取り組んでくれます。当社の業務は基本的に同じ作業を繰り返すことが多いので、障害者に向いていると感じています。最初はできなくても、何度も繰り返し教えることで、必ずできるようになります。

梱包用の箱を作る作業では、ガムテープをしわなく貼り付けてくれて、仕事はとても正確で丁寧です。また、工場の入室時に行う手洗いは丁寧に念入りにしてくれるため、衛生面の心配は他の従業員よりも少ないです。

社内では、障害者雇用に取り組んできたことで、従業員の意見や生じた問題は社内で共有する環境があり、障害者と共に働く風土ができあがっています。

こんな課題どうしていますか？　現場の従業員の理解を得ることが難しい

A 障害者それぞれの特性をすぐ理解できる人もいればできない人もいます。できない人には時間をかけて、詳しく話をしています。すぐに理解されなくても、障害者と従業員両者の意見を聞いて、地道に説明をしていくことで徐々に理解を得られるようになりました。

支援機関

職場定着のための情報共有と信頼関係の大切さ

障がい者就業･生活支援センター アシスト　主任職場定着支援ワーカー 渡邉さん
（P.35参照）

株式会社ワイエムフーズ様とは、障害者雇用に力を入れてくださった平成25年頃から支援に関わらせていただき、現在に至っております。

障害者それぞれの特性に合わせた作業を配分していただきながら、定期的に会社の障害者雇用担当者と障害者が面談を通して、日頃の作業状況等の確認をされています。会社内で解決困難な課題が発生した際には、障害者雇用担当者の方から当センターにご連絡いただき、即時対応をさせていただいていることが、障害者が長年会社に定着されている一因ではないかと感じています。

また、困ったことがあっても自ら発信できないといった特性をもつ障害者については、企業担当者との面談に当センターも加えさせていただくことで、それまで発信できなかった方も徐々に伝えることができるようになり、障害者の成長を「会社」･「障害者」･「当センター」で喜びを共有させていただいています。

今後も企業様のナチュラルサポートを目指しながら、信頼関係を大切にして支援させていただきます。